

平成 26 年度

提 言 書

石狩市社会教育委員の会議

提言書

石狩市社会教育委員の会議は、地域の課題を市民のみなさんとともに学び、今後の社会教育の課題、方向を明らかにする講座として社会教育委員と学ぶ市民講座を開催しました。講座は「高齢者」「コミュニティ」「子育て」「学校支援」「社会教育施設」をテーマとして実施しました。

これら五つのテーマのうち「高齢者」「コミュニティ」を第1分科会、「子育て」「学校支援」を第2分科会としてそれぞれ2回の会議で、「社会教育施設」については社会教育委員の会議内で検討しました。

つきましては、本市を取り巻く課題を整理し、平成26年度に策定する「石狩市教育プラン後期計画」の取組の方向性について、検討し、次のとおり意見を申します。

- 【第1分科会】 テーマ①：地域の高齢化と高齢者の孤立を防ぐ活動
テーマ②：石狩市のコミュニティの現状について

■高齢者の課題

石狩市は平成21年に高齢化率が21%を超え、超高齢社会といわれる状態になりました。このような状況の中、分科会では高齢化に関わる問題と孤立を防ぐ活動について協議しました。

多くの高齢者にとって、将来の不安は、身体機能の低下やそれに伴い社会とのつながりが希薄になることであり、特に買物などの日常生活を営む上で、移動手段の確保は重要な問題です。市内のバス路線も、きめ細かに配置されてはいますが、多様なニーズに対応できるとは限りません。

また、「社会教育委員と学ぶ市民講座」の中では、老人が老人を介護する「老老介護」の実態も身近にあることがわかりました。

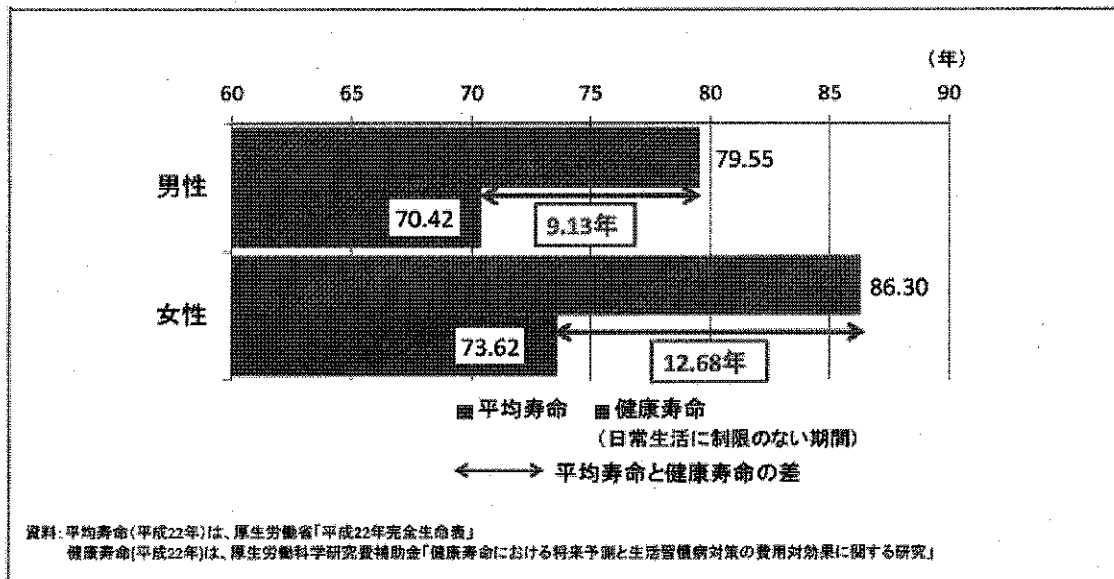
団塊の世代が高齢期へと移行する今、健康寿命を延ばすことが必要であるとともに、コミュニティの再生にも関わりますが、高齢者を見守る地域であることも大切だとわかりました。また、要介護状態になった時に介護保険制度や成年後見人制度等の知識を得ることも重要です。(図1参照)

以上のことから、これら的高齢者の課題を解決するために実態を把握し、次

の2点について取組を行うことを提言いたします。

- (1) 高齢者の日常生活を支える取組
- (2) 高齢者の健康に関する取組

図1 平均寿命と健康寿命の差



【出典】厚生科学審議会地域保健健康増進推進部会・次期国民健康づくり運動プラン策定専門委員会
「健康日本21(第二次)の推進に関する参考資料」p25

(厚生労働省HPより)

■ コミュニティの再生への課題

国の統計によると、この30年間で、高齢者単身世帯は5.6倍、夫婦とも又はいずれか1人が高齢者の夫婦のみの世帯は4.0倍と増加しており、高齢者の孤立も大きな課題です。(図2参照)

石狩市の人口は、今後も少しずつ減少していくことが想定されています。年齢階層別に見ると、労働力の中心となる生産年齢人口と次代を担う年少人口は減少する反面、老年人口の大幅な増加が見込まれます。(図3参照)

また、都市化の進展やライフスタイルの変化に伴い、地域の連帯感や住民相互の人間関係が希薄化しています。

そのため、どの地域でもコミュニティの弱体化が問題となっており、町内会など身近なところに集うことも少なくなっています。

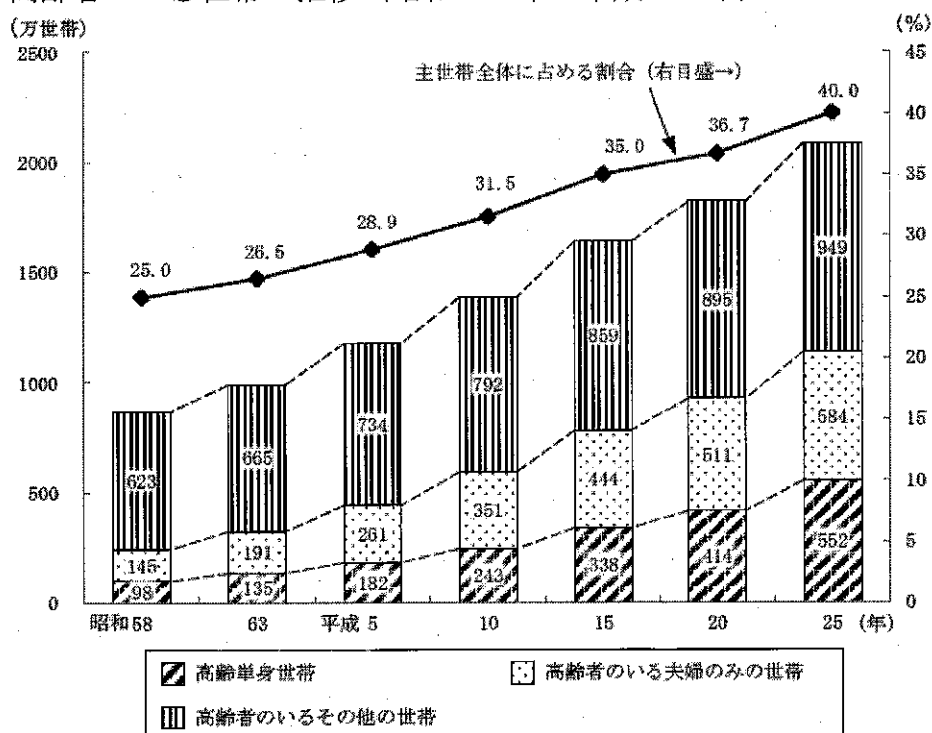
地域コミュニティの問題の背景には若年人口の減少もあります。石狩に住む

子どもたちにこの町に住み続けてもらうことが理想的ですが、まちの魅力を内外に伝え石狩をサポートしてくれる若年層の増加を図る取組が必要です。それとともに、子育てしやすい環境を整備し、宣伝し、若い人たちに石狩市に住んでもらう方策も重要でしょう。

以上のことから、コミュニティの再生への課題を解決するために実態を把握し、次の2点について取組を行うことを提言いたします。

- (1) 身近な集いの場を作る取組
- (2) 若者と石狩をつなげる取組

図2 高齢者のいる世帯の推移（昭和58年～平成25年）



資料：「住宅・土地統計調査」（平成25年は、速報集計結果）

注）世帯の数値は、万世帯単位で四捨五入してあるので、内訳の計は必ずしも合計に一致しない。

※1）「高齢者のいる世帯」とは、「65歳以上の世帯員がいる主世帯」であり、次の三つの型に区分している。

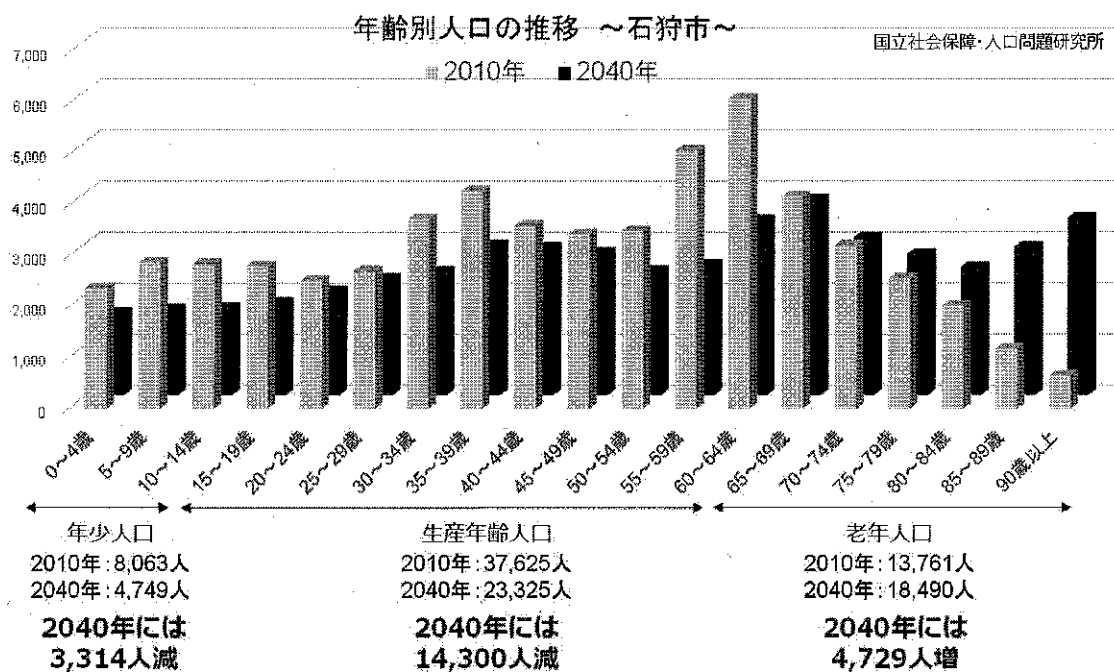
なお、「高齢者のいる世帯」は昭和58年から集計している。

- ① 高齢単身世帯…65歳以上の単身の主世帯
- ② 高齢者のいる夫婦のみの世帯…夫婦とも又はいずれか一方が65歳以上の夫婦一組のみの主世帯
- ③ 高齢者のいるその他の世帯…高齢者のいる世帯から上記の二つを除いた主世帯（高齢者と生計を共にするその他の世帯員で構成される主世帯）

※2）「主世帯」とは、1住宅に1世帯が住んでいる場合はその世帯、1住宅に2世帯以上住んでいる場合にはそのうちの主な世帯（家の持ち主や借り主の世帯など）である。

（総務省報道資料（平成26年9月14日）「統計からみた我が国の高齢者（65歳以上）」より）

図3 石狩市の年齢別人口構成



(「第5期石狩市総合計画のミッション・ビジョン」より)

【第2分科会】 テーマ③：みんなで考えよう子育て支援

テーマ④：地域社会と学校支援

■子育て世帯における課題

女性の雇用が進み、社会進出が図られる一方で、厳しい経済状況から共働き世帯も増えています。また、核家族化や、離婚等によるひとり親世帯の増加が進み、親が仕事から帰宅することが遅いといった理由から、学校から帰宅しても、家には誰もいないという子どもがいます。

平成25年度全国学力・学習状況調査〔児童・生徒質問紙〕結果によると、石狩市の小中学生による1日当たりの「テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間」、「テレビゲームをする時間」はどちらも全国に比べ依然多い状態になっています。(図1、図2参照)

それに対し、家庭学習の時間は全国に比べて少ない傾向にあります。(図3参照)

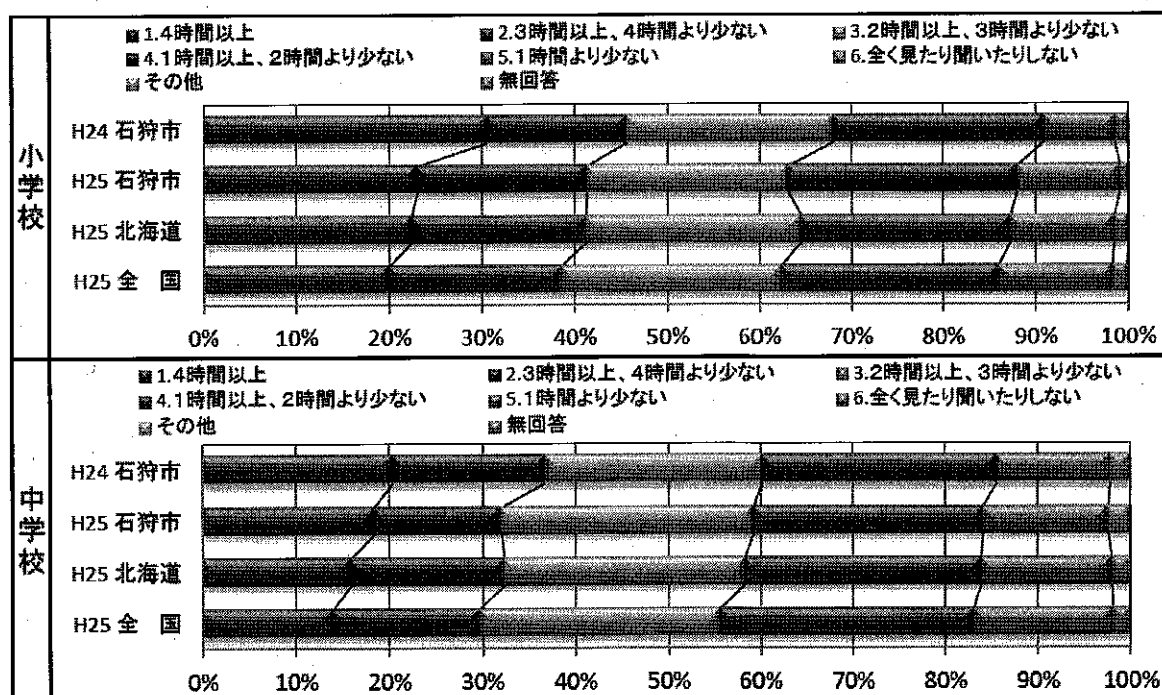
このような現状から、家庭の教育力低下を補うためには、地域で家庭を見守り支援をする仕組みが大切であり、子どもの家庭学習の支援や子育てがしやすい環境づくりをより進めることが重要であると考えました。

以上のことから、子育て世帯の課題解決を図るために、次の2点について取組を行うことを提言いたします。

(1) 子どもに対する家庭学習支援の取組

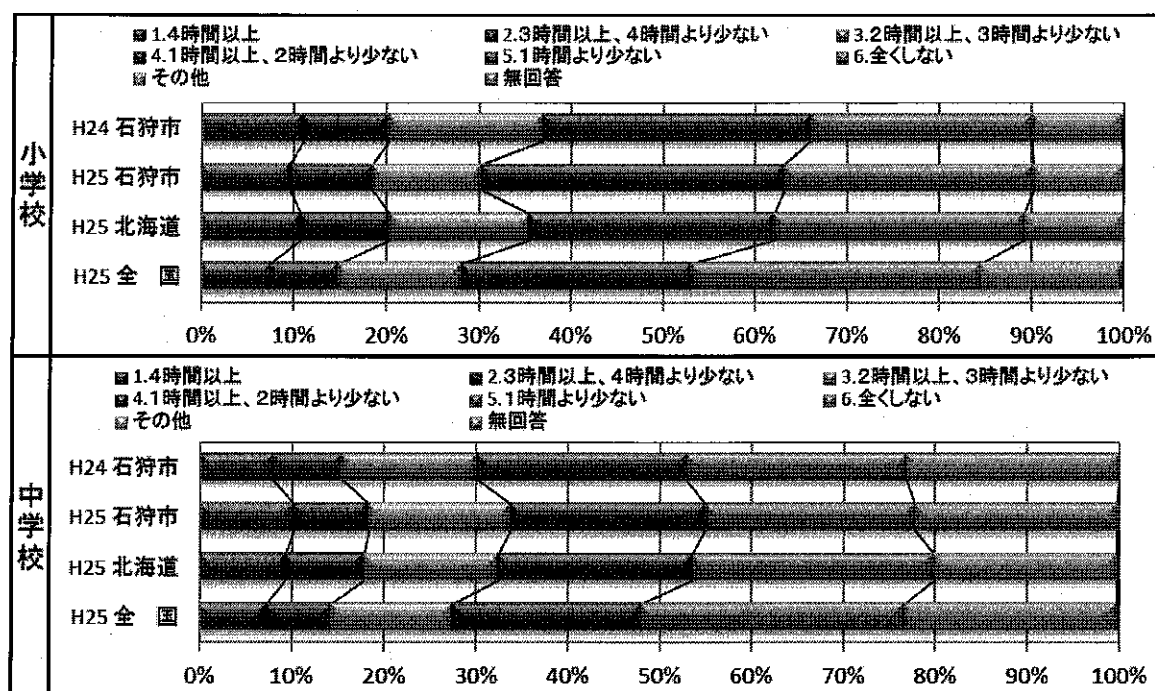
(2) 子育てをする人を対象とした学習機会の取組

図1 テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間



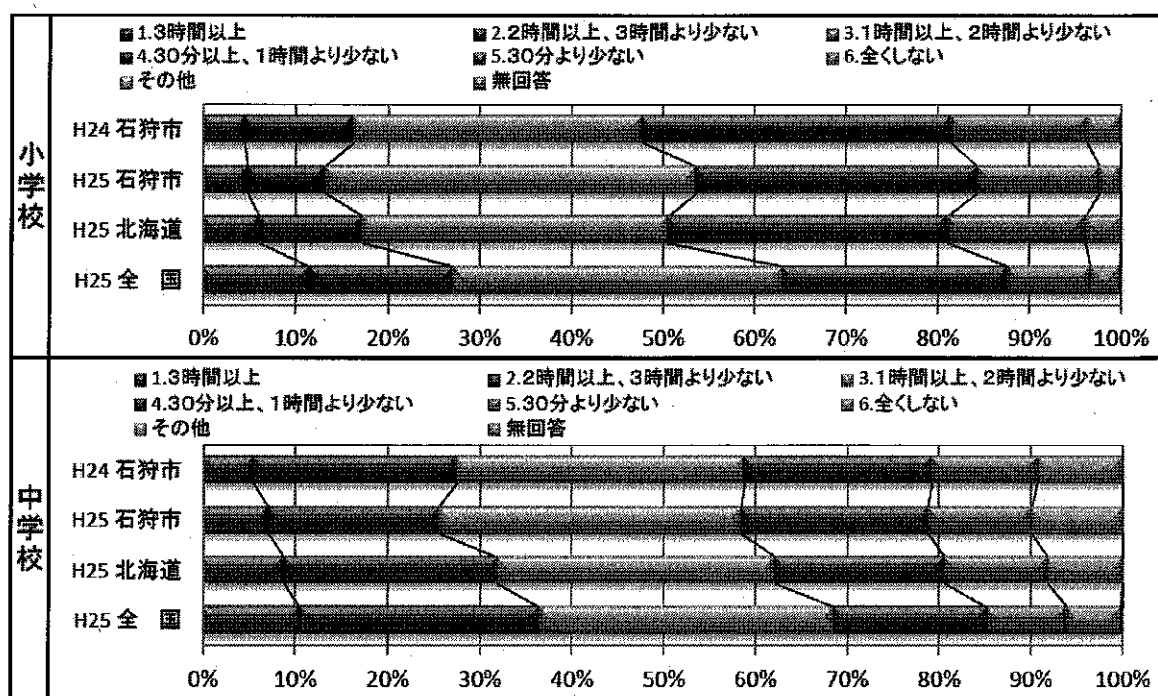
(平成25年度 全国学力・学習状況調査 ～石狩市における結果の概要～より)

図2 テレビゲームをする時間



(平成 25 年度 全国学力・学習状況調査 ～石狩市における結果の概要～より)

図3 家庭学習の時間



(平成 25 年度 全国学力・学習状況調査 ～石狩市における結果の概要～より)

■地域ぐるみの学校支援における課題

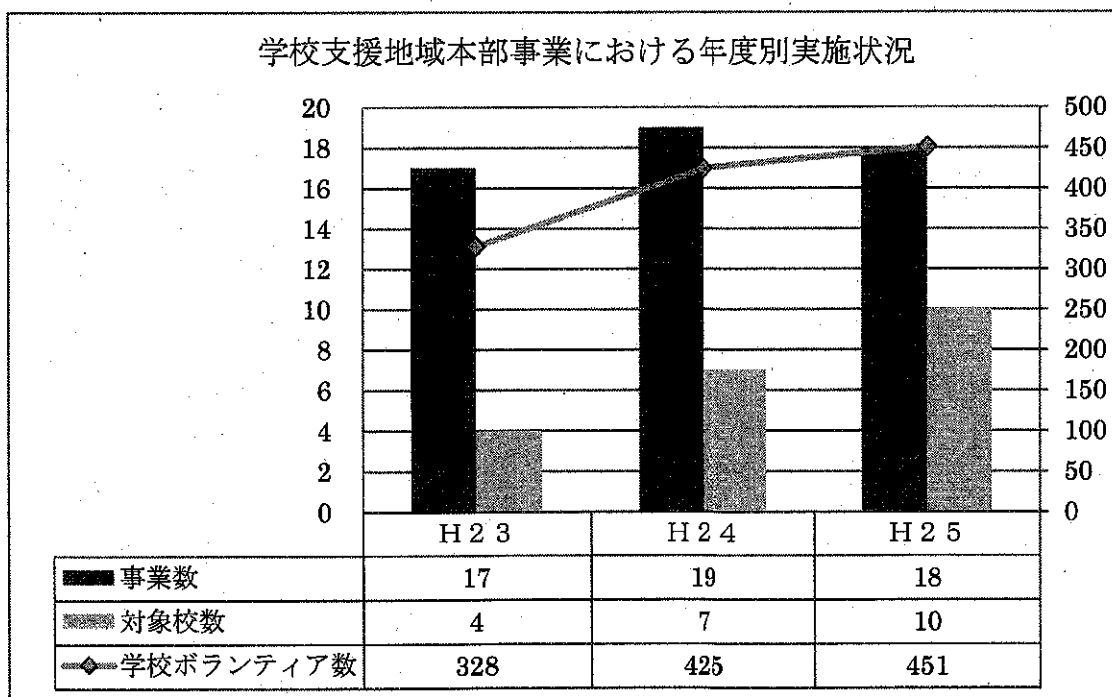
前述の「子育て世帯における課題」でも触れたように、人々のライフスタイルは多様化し、子どもを取り巻く環境も大きく変化しています。学校だけが教育に対し責任を負うのではなく、学校、家庭、地域の連携のもとで教育を進めていくことがより一層必要となっています。

豊富な知識や経験をもつ地域の住民による支援によって、学習・学校環境の充実が図られるだけでなく、地域住民と学校との相互理解が進み、地域が子どもを見守る社会の実現の一助になると言えます。

このような理由から、地域住民の力を借りて地域と学校の協働体制をさらに深めることが必要であり、地域住民と子どもが交流するための教材として、「地域の宝」（地域の中で大切にしたいと思う事や物、人等）を活用することが良いのではないかと考えました。

以上のことから、地域ぐるみの学校支援における課題解決のために、次の3点において取組を行うことを提言いたします。

- (1) 地域と学校の連携をより深める取組
- (2) 学校支援ボランティア確保に向けた調査の取組
- (3) 「地域の宝」を用いた取組



(石狩市学校支援地域本部事業報告書より)

【第3分科会】 テーマ⑤：地域を創造する社会教育と社会教育施設の役割

■背景

私たち社会教育委員は、社会教育で学習すべき地域の課題について、次のようにまとめました。

第1に、石狩市においても地域差をとめないながら高齢化が進展しており、高齢者の孤立を防ぐ活動が重要になっていること、第2に、そのためにも、人間関係が希薄化しつつあるコミュニティのつながりを作りだすことがより重要になっていること、第3に、共働き世帯やひとり親世帯の増加など家庭環境の変化を背景に、地域で子どもを見守り、子育て世帯を支援する仕組みが必要となっており、石狩市ではその担い手として市民活動が大きな役割を果たしていること、第4に、そのために学校を支援し、子どもたちの家庭学習を支援するボランティアやその活動場所を確保すること、そのような「人財」の養成が重要であることです。

これらの課題を解決するための学習は、ひとりではなく、仲間と共に学ぶことが重要です。そのためのつながりを作りだす場所として社会教育施設があり、公民館や図書館、博物館等の機能が高められることが期待されているとあらためて確認しました。

■社会教育施設の現状

石狩市は旧学校校舎を利用した石狩市公民館とその分館があります。また、図書館としては、市民図書館、同花川南分館、同八幡分館と浜益コミュニティセンターにある浜益分館に加えて厚田小学校のあいかぜとしょかんがあります。博物館としては、いしかり砂丘の風資料館、厚田資料室、はまます郷土資料館があります。(表1)

公民館、市民図書館、いしかり砂丘の風資料館では、それぞれの独自の機能を発揮するとともに、様々な講座や参加・体験型の事業が実施され、ボランティアの参画によって、市民が集まる「居場所」として活動をしています。

今後の課題としては、地域住民が運営に参加することによって施設の充実を図ること、施設職員の研修を充実させること、それぞれの施設の実践の成果を共有し、広報も共同で行えるようなネットワークを形成することなどが考えられます。

石狩市公民館については新設が課題となっていますが、老朽化しているけれど温かい雰囲気の中かで、多様な事業と市民のサークル・グループ活動が行わ

れています。使い勝手の良い現在の施設の利点を残し、さらに市民が学びやすく、利用しやすい施設とするために利用者の意見を反映した新しい施設が期待されます。

図書館については、たいへん実績のある市民図書館を核に分館とのネットワークを充実させ、地域格差をなくす取り組みが求められています。

博物館については、合併後の石狩市民が共通のアイデンティティを育めるよう、地域の歴史や自然を学べる施設が求められており、それぞれの館で組み込まれてきたボランティアの参画も期待されています。施設の新設にあたっては、その新築のプロセスの中で、ボランティア活動を通じて運営に積極的に参画する市民が育つような取り組みが必要です。

表 1

社会教育施設等の年間利用状況(H23～25)

学び交流センター			カルチャーセンター		石狩市公民館					
施設名	学び交流センター		紅南小学校		本館		樺川分館		美登位分館	
	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数
H23	16,267	1,382	8,657	538	26,723	1,627	9,125	478	525	55
H24	17,437	1,664	8,402	502	25,948	1,572	9,278	462	692	59
H25	16,978	2,101	9,322	531	25,203	1,473	9,039	467	760	64

施設名	石狩市民図書館	
	人数	貸出数
H23	285,989	588,171
H24	279,333	559,561
H25	261,324	555,139

研修センター等										
施設名	高岡ふれあい 研修センター		北生振ふれあい 研修センター		五の沢ふれあい 研修センター		生振ふれあい 研修センター		美登位 創作の家	
	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数
H23	1,981	173	1,298	104	608	45	1,887	133	2,277	
H24	2,541	158	1,140	92	687	47	2,536	143	2,389	
H25	1,967	152	1,316	99	504	51	2,054	132	2,584	

資料館等						
施設名	いしかり砂丘の風資料館		厚田資料室		はまます郷土資料館	
	人数	件数	人数	件数	人数	件数
H23	2,474		2,218		957	
H24	2,710		2,978		832	
H25	2,387		3,224		935	

元データ:平成23年度～25年度
「社会教育施設等の利用状況について」

元データ：平成23年度～25年度
「社会教育施設等の利用状況について」

■社会教育施設に期待されること

石狩市の社会教育施設では、それぞれの施設が持つ独自の機能を発揮し、市民の学習を支援するとともに、講座や参加・体験型の事業が様々に実施されています。このように市民が集う「居場所」のみならず、学んだことを共有し、様々な課題について議論し、学ぶ場をつくることも求められておりますし、厚田区や浜益区と石狩地区の地域住民が相互に交流できるよう施設を有効に活用すること、そして、交通アクセスも課題のひとつです。

また、子どもたちの学習支援や※ロビーワークに取り組むことのできる職員及びボランティアの養成も必要です。(※2)

さらに、市民が運営に意見を反映できるようにするには、各施設の協議会の充実や利用者懇談会の開催などが重要ですし、社会教育施設がそれぞれの独自の機能を有効に発揮するためには、施設の取組みについて情報を共有する「連絡会議」や共同による職員の研修なども大切です。(※3)

以上のことから、石狩市の社会教育施設をより良いものとするために実態を把握し、次の2点について取組を行うことを提言いたします。

※ロビーワーク：フリースペースとしてのロビーを有効に活用するため、利用者の相談や支援を行ったり、ロビーそのものを利用した事業のこと。

- (1) ボランティアを養成する取組
- (2) 社会教育施設等が情報を共有するための取組

石狩市社会教育委員

(委嘱期間：平成26年6月1日～平成28年5月31日)

	区分	氏名	所属団体等	分科会
1	学校教育関係者	高橋 たい子	石狩市校長会	第1分科会
2		設楽 正敏		第3分科会
3	社会教育関係者	石井 量子	NPO 法人石狩市文化協会	第1分科会
4		山田 治己	いしかり市民カレッジ運営委員会	第2分科会
5		大橋 修作	石狩ユネスコ協会	第1分科会
6		小條 智英美	石狩市 PTA 連合会	第2分科会
7	家庭教育向上に 資する活動を行 うもの	福士 志穂	石狩市私立幼稚園振興会	第2分科会
8		宮田 あゆみ	子育て支援ワーカーズぽけっとママ	第2分科会
9	学識経験者	相馬 保		第2分科会
10		大黒 利勝	中央美術協会会員	第1分科会
11		木村 純	北海道大学特任教授	第3分科会
12		古村 えり子	北海道教育大学教授	第2分科会
13		平 紀子	札幌市立大学図書館専門員	第3分科会
14	一般公募	高橋 美恵子		第1分科会
15		片山 あゆ美		第1分科会

平成25年度「社会教育委員と学ぶ市民講座」

講 座 名	実施月日	担当
①地域の高齢化と高齢者の孤立を防ぐ活動	平成25年 8月9日(金)	第1分科会
②石狩市のコミュニティの現状について～厚田区の取り組みから学ぶ～	平成25年 9月11日(水)	
③みんなで考えよう 子育て支援	平成25年 9月30日(月)	第2分科会
④地域社会と学校支援	平成25年 10月30日(水)	
⑤地域を創造する社会教育と社会教育施設の役割	平成25年 11月16日(土)	第3分科会

平成 26 年度石狩市社会教育委員の会議及び分科会経過

会議名	実施月日	出席数	内 容
第 1 回石狩市社会教育委員の会議	6 月 24 日 (火)	14	・ 委員委嘱、委員長・副委員長選出 ・ 平成 26 年度石狩市芸術文化振興奨励補助金交付対象事業について ・ 石狩市教育プラン後期基本計画の策定について ほか
第 1 回第 2 分科会	7 月 14 日 (月)	6	・ 石狩市の実態、研修会で学んだこと ・ 石狩市の課題
第 1 回第 1 分科会	7 月 15 日 (火)	6	・ 石狩市の実態、研修会で学んだこと ・ 石狩市の課題
第 2 回第 1 分科会	8 月 22 日 (金)	5	・ 課題の解決策 ・ 取り組むべき課題の優先順位
第 2 回第 2 分科会	8 月 25 日 (月)	6	・ 課題の解決策 ・ 取り組むべき課題の優先順位
第 2 回石狩市社会教育委員の会議	10 月 8 日 (水)	11	・ 平成 26 年度北海道市町村社会教育委員長等研修会（札幌市）について ・ 平成 26 年度石狩管内教育委員会協議会社会教育共同事業「社会教育関係職員等研修会」について ・ 石狩市教育プラン後期基本計画の策定にかかる提言書案について ほか